

伊藤先生の
街かど診療室
Q & A

眼科手術は
低侵襲手術の時代③
(緑内障について)

眼科の手術機械は2000年を境に大きく発展しています。メーカーや天才的な先生方が知恵を絞り、いかに侵襲が少ない手術が出来るかをそれぞれ競うように開発しています。今回は緑内障手術についてです。

アメリカのバーベルな隔たりがあることはト先生らが2000年代初めに開発したトラベクトームという機器は、わずか1.7mmの角膜切開から眼内の水の出口を拡げるといって低侵襲緑内障手術を可能にし、バーベル先生らに直接教えを受けた私たちのグループが12年時に、あらゆる低侵襲緑内障手術が世界中で開発、日本に導入という流れが出来てきました。同時に、眼内にチューブ(金属・シリコンなど)を留置して水を一定量排出する方法も日本で採用され始め、これもアメリカの臨床現場で経験してきた私たちにあっては、非常に門戸が開かれた感を強く持ちました。その理論や原理の理解にまだ大きな

10年前までは眼球の約1/4周に切開を入れ、眼球の硬い壁(強膜)を1/2もしくは1/3の厚さで削り、眼球内にアプローチして茶目(虹彩)を切ったり、その近くを切開したりと職人技を必要とする手術で、その手技も多岐にわたり、あらゆる方法を試行錯誤しながら行っていました。

伊藤 勇
保谷伊藤眼科院長
大学病院で最先端の眼科医療に携わってきた眼科専門医。地域の医院との連携を積極的に図っている。

アメリカのバーベルな隔たりがあることはト先生らが2000年代初めに開発したトラベクトームという機器は、わずか1.7mmの角膜切開から眼内の水の出口を拡げるといって低侵襲緑内障手術を可能にし、バーベル先生らに直接教えを受けた私たちのグループが12年時に、あらゆる低侵襲緑内障手術が世界中で開発、日本に導入という流れが出来てきました。同時に、眼内にチューブ(金属・シリコンなど)を留置して水を一定量排出する方法も日本で採用され始め、これもアメリカの臨床現場で経験してきた私たちにあっては、非常に門戸が開かれた感を強く持ちました。その理論や原理の理解にまだ大きな

☎ 042-439-8123
西東京市北町 1-6-1
レッツビルディング 3F
http://www.itoganka.com/
■科目：網膜硝子体疾患手術、緑内障手術
白内障手術、眼科一般診療
■時間：水・土曜午後、日曜、祝日は休診
※緊急手術は随時対応 ※月・金曜午後は予約優先

	月	火	水	木	金	土	日
9:30~12:30	○	○	○	手術	○	○	／
14:00~17:00	検査・診察	手術	／	手術	検査・診察	／	／